議 事 録

会議名	第1回教育課程編成委員会		**提出日**	2025 年 10 月 17 日
開催日時	2025 年 10 月 8 日(水)	10:00～11:15	**場所**	本部館　6F　特別室
出席者	今井学校長、宮田副校長、猪俣委員、新井委員、武藤委員、中島職員			
			書記	中島

議　事　内　容

１．学校長挨拶

２．出席者確認・ご紹介

３．議事（報告：宮田副校長）

①前期の職業実践専門課程実施に係る実習・演習実績報告

②後期の職業実践専門課程実施に係る実習・演習予定・計画

③質疑

猪俣：首都圏の官公庁などに行く際は、学生がアポイントをとっているのですか？

宮田：１年生の最後に実施するフィールドワークでは学生が自分たちでとり、官公庁の研究を行いますが、研修旅行に関しては職員が行っています。

猪俣：公安系はどの職種が一番人気ですか？

宮田：本校の学生では消防の人気が高いです。高校生は警察官希望が多いと感じます。

武藤：女性の消防士希望は多いですか？

宮田：今年度在籍している学生にはいませんが、年によってはいます。高校生には消防士を希望している生徒は多くいると感じています。以前と比較すると消防も女性が活躍でき、働きやすい環境になっていると聞いています。

新井：学生消防団の活動は出動などもあるのですか？

宮田：日頃の活動では、災害出動はなく啓発活動を主に行っています。初任者研修での放水訓練や、当校では学生全員に救命講習を実施していますので、そのような活動は消防士をはじめとする公務員になった際にも活きてくると思います。群馬マラソンの際には、救護班としてランナーのサポートを行います。

宮田：最近は県外希望の学生が増えてきている気がします。自分の希望する仕事が明確になっていて、地元にこだわらない学生が増えていると感じます。

猪俣：民間企業と公務員の引っ張り合いがあると思うのですがどうですかね？

議 事 録

宮田：公務員の倍率が年々下がっている傾向から、民間企業の方が優勢に思えます。高校の進路指導の先生に話を聞くと、民間企業からの求人票がたくさん来ているようです。大手企業からの求人票も増えているようで、以前だと、公務員試験に不合格だった場合は諦めきれなくて本校に入学する生徒が多かったと思いますが、最近は諦めて民間企業へ就職する生徒が増えている気がします。
猪俣：自衛隊は辞めてしまう人も多いのですか？
宮田：正確な数字は分かりませんが、話を聞く限りでは、配属先にもよるみたいですね。任期制の自衛官採用もありますので、入隊したすべての人が定年まで続けるとは考えていないと思います。
宮田：来年度から単位制へ移行するため、カリキュラムが大幅に変更となります。学生たちが学びたい授業を選び、基準の単位数をとって卒業するという形に移行します。今までは全員が同じ授業を受けていましたが、各個人が将来を見据えて、必要な知識や技術が得られるカリキュラムに変えていきます。
猪俣：単位制になると、指導が結構難しくなりますよね？
宮田：他の学校とすり合わせ、専門的な授業をいかに実施するかが一つの課題であると思います。強みが打ち出せると、進学を希望する高校生に対しても大きな魅力になると考えています。
猪俣：県職のⅡ類、Ⅲ類はどのような違いがありますか？
宮田：県職ではⅠ類が大卒程度、Ⅱ類が短大卒・専門卒、Ⅲ類が高卒程度となっています。公務員試験には学歴区分が存在しています。様々な事情で大学へ行けない生徒も公務員として働けるよう、学歴ごとに試験を実施することで公平な試験となっています。もちろん入職後の給料や昇進等の条件面において違いはでてきます。
猪俣：本校の入学人数はどうですか？
宮田：オープンキャンパスや各種セミナーなどの参加人数は、過去最高に近い数字がでている状態です。少なくとも、今年の募集は例年よりも良いと考えています。少子化が進み専門学校としては難しい状況が続きますが、新しいことに挑戦をしながら、社会から求められる人材を育成できる学校運営をしていきたいと思っています。しかし、学校職員はどうしても視野が狭くなりがちですので、今後とも様々な角度からの意見やご指摘をいただければと思います。
４．その他　次回開催： 2026 年 3 月頃予定

議 事 録

会議名	第 2 回教育課程編成委員会		**提出日**	2026 年 3 月 31 日	
開催日時	2026年 3 月 24 日(火)	10:00～11:00	**場所**	本部館 6F 特別室	
出席者	今井学校長、宮田副校長、猪俣委員、新井委員、武藤委員、石関委員、中島				
			書記	中島	

議 事 内 容

１．学校長挨拶

２．出席者確認・ご紹介

３．議事（報告：宮田副校長）

①今年度の職業実践専門課程実施に係る実習・演習実績報告

②来年度の職業実践専門課程実施に係る実習・演習予定・計画

③質疑

④教育課程への意見の集約と改善案

武藤：学生は志望する職種によって、人前での発表の様子に違いはありますか？

宮田：警察官・消防士などの公安系を希望する学生は、人前での発表や受け答えが比較的しっかりできる傾向があります。一方、事務系を希望する学生は、人前で話すことに苦手意識を持つ学生も多く、発表時に原稿やスマホを見ながら話す様子も見受けられます。また、近年は学生の状況も多様化しており、精神面・身体面でさまざまな事情を抱えている学生もいます。そのため、周囲と比較するのではなく、一人ひとりの努力や成長を認めることが大切だと考えています。発表に苦手意識がある学生についても、本人なりの努力を評価し、声掛けなどを通じて少しずつ自信を持てるよう、支援していきたいと思います。

新井：警察官や消防士などと連携した活動について、学生が経験できる機会はありますか？

宮田：学生にとって、より実践的な経験機会を設けるため、警察と連携したパトロールなどを実施したいと考えています。前橋警察署の協議会に参加していることから、そのつながりを活用し、警察官と一緒に活動する機会を設けることで、学生の新たな気づきや学びに繋がると考えています。一方で、学校単独の取り組みや入学者募集を目的としたオープンキャンパスへの協力については、公的機関との連携が難しい場合も

議 事 録

ります。そのため、消防の協力を得る際には、管轄地域にとらわれず、他地域の消防にも依頼するなど、協力を得られるよう工夫しています。
石関：学生の AI 活用について、現状や課題はどのように感じていますか？
宮田：近年、学生が作文や反省文などの文章作成に AI を活用する機会が増えています。AI を活用すること自体は問題ありませんが、作成された文章をそのまま提出するのではなく、自分で内容を確認し、不足している部分を補ったり、修正したりすることが大切です。AI は文章の整理などに便利なツールですが、頼りすぎると、自分で考え、判断し、表現する力が身につかなくなる懸念があります。また、謝った情報が含まれる場合もあるため、内容の正確性を確認する必要があります。行政書士などの専門職でも AI の活用が進んでいますが、最終的には自分で内容を確認し、判断することが重要だと考えています。
猪俣：デジタル化が進む中で、学生の文字を書く機会や書き方に変化はありますか？
宮田：デジタル化が進み、当校でもインターネット出願などの導入にしたこともあって、学生本人が手書きをした文字を見る機会が減ったように思います。手書きの文字からは、丁寧さや人柄、個性などが伝わることもあり、そうした機会が少なくなることを残念に感じています。また、最近の学生には、文字が小さかったり、筆圧が強すぎたり、反対に弱すぎたりする傾向が以前よりも強くなったように見受けられます。筆記用具についても、以前は HB の芯が一般的でしたが、現在は B や 2B など、柔らかい芯を使用する学生が多く、時代とともに変化していると感じています。
猪俣：大学での公務員試験対策充実する中で、学生募集やセミナー参加者の状況に変化はありますか？
宮田：現在、大学では公務員試験対策に力を入れるところが増えており、大学内で試験対策が完結する環境が整ってきているように感じています。そのため、以前は一定数の参加者がいた大学生向けの公務員セミナーも近年は参加者が減少しています。特に、県内の大学では、公務員試験の合格実績を強みに学生を集めているところもあり、競争が厳しくなっているように感じます。
４．その他　次回開催： 2026 年 10 月頃予定